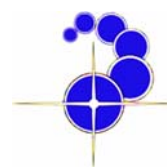


確かな学力の伸長を目指して ～生徒の主体性を喚起し、学びを深める新聞活用～

新潟県立村上中等教育学校



1 学校の概要

村上中等教育学校（吉井裕也校長、生徒数 460 人）は、平成 14 年度に公立学校では全国で 2 番目の中等教育学校として開校した。以来、「Let's Try」の校是の下、「主体的に学び、確かな学力と豊かな人間性を身に付け、国際的な視野をもって社会に貢献できる人間の育成」を教育目標に、中等教育学校の強みを生かし、6 年間を見通した指導を行っている。



村上中等教育学校では、6 年間で 3 つのステージに分け、1, 2 年生の 1st STAGE では、基礎・基本の定着、3, 4 年生の 2nd STAGE では発展的学習への挑戦、5, 6 年生の 3rd STAGE では学力の深化を目標に、各ステージをスムーズにつなぐための様々な教育活動を行っている。宿泊研修、ブリティッシュヒルズ語学研修旅行、職場体験、小学校での英語指導体験、オーストラリア海外研修旅行等、生徒の発達段階に応じた多彩な体験型学習や、地域活性化の拠点としてのスクール・アイデンティティに基づいた、瀬波巡検、瀬波温泉活性化計画の提案、町屋の人形さま巡り、地域振興策の行政への提案等、地域理解・地域活性化に係る学習活動を充実させている。

2 NIE 実践のねらい

当校では、「確かな学力の伸長を目指して ～主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり～」を研究主題とし、全国学力・学習状況調査の問題や新傾向の大学入試問題を分析しながら、研究部主催の授業改善研修や 1 人 1 研究授業などの取組をとおして、時代の要請を踏まえた学力の定着・伸長を図っている。また、「総合的な探究の時間」の実施にあたり、6 年間の「総合的な学習・探究の時間」の全体計画を見直した。

NIE の研究主題を『確かな学力の伸長を目指して ～生徒の主体性を喚起し、学びを深める新聞活用～』と設定し、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた各教科の授業と、「総合的な学習・探究の時間」での NIE の推進を図る。実践 1 年次の今年度は、① 生徒や職員が新聞に触れる機会を増やすための環境作り、② 前期課程を中心とした新聞活用の基礎作り、に重点を置いて校内計画を作成した。特に、6 年間一貫教育の要となる 2nd STAGE での 3 年生と 4 年生のスムーズな接続を目指し、実践を行う。

3 本年度実践の概要

(1) 新聞活用のための環境作り

① NIE コーナーの設置

生徒が気軽に新聞を読むことができるよう、2階フリースペースに「NIE コーナー」を設けた。最新の新聞を新聞掛けに設置し、6紙を読み比べできるようにした。また、バックナンバーを1ヶ月ごとに束にし、スクラップや調べ学習の際に利用できるようにした。



NIE コーナーの新聞閲覧スペース

② 前期課程での新聞スクラップ

前期課程生（1～3年生）について、朝読書の時間を「NIE タイム」として設定し、月曜日と金曜日の毎週2回、新聞スクラップを行った。

各自で新聞を用意し、気になる記事をスクラップし、見出し、記事の概要、感想・意見・疑問点などを記入した。完成したものは、各自の新聞スクラップ用ファイルに綴じ込んで保管した。

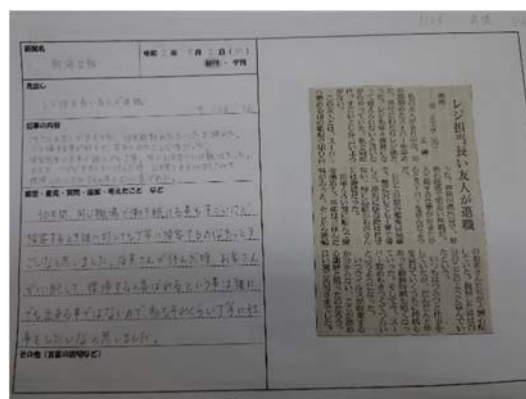


前期課程生の NIE タイムの様子

③ 職員研修の実施

7月29日（金）に県 NIE アドバイザーの蟻塚先生を招いて職員研修を実施した。

NIE の基礎知識や、NIE により定着が期待される力、具体的な実践の方法などについて講演をしていただいた。職員の実践意欲を高めることができた。



前期課程生の新聞スクラップ

④ 各種コンクールや投書への応募

国語科を中心に、各種コンクールや投書へ応募した。

- ・新潟日報「窓 きらきらキラリ」
- ・日本新聞協会「一緒に読もう！新聞コンクール」
- ・朝日新聞社「私の折々の言葉 コンテスト」
- ・朝日新聞社「SDGs 169 ターゲットアイコン日本版制作プロジェクト」
- ・新潟日报社「未来のチカラ in 県北 未来レター」

(2) 各教科による授業実践

① 国語科 1年 論点を捉えて 中坊徹次「幻の魚は生きていた」

新聞活用のねらい

種の絶滅やクニマスの復活に関する現状を知り、人間の生活と生き物や環境との関係について考えながら文章を読む。

授業の概要

- ・ 新聞記事①から、「絶滅種」が「絶滅危惧種」に改善された例を知る。
- ・ 新聞記事②から、ある生物が絶滅すると、その種と関わり合ってきた他の生物も同時に失われてしまうことを読み取る。
- ・ 新聞記事③から、絶滅したと思われたクニマスが発見された喜びと種や環境の保全に関する課題を読み取る。
- ・ クニマス絶滅から生存確認までの経緯を教科書本文で確認する。

成果

- ・ 導入で新聞を活用したことで、生徒は問題意識をもって本文読解に臨むことができた。
- ・ 新聞記事と教科書本文を比較し、両者の視点や評価の違いに気付き、本文読解を深めることができた。



② 数学科 2年 「1次関数の活用」

新聞活用のねらい

- ・ 身の回りの様々な事象について、数学を用いて考察する意識を培う。

授業の概要

- ・ 男子100m走の世界記録の推移についての記事を基に、人類が9秒5の壁を破る日がいつ頃おとずれるか、という問いを引き出す。
- ・ データを表、式、グラフを用いて整理し、予想を考える。
- ・ 自分なりの納得解を見つけ、数学的な根拠を基に説明する。

成果

生徒は、新聞に載っている実際の記録を使って、数学的な答えを出すことのおもしろさや、新聞から得られる情報の多さ、社会で起きている事象を数学的に見ていくことのおもしろさ等に気付き、興味関心をもって取り組む姿が見られた。



③ 理科 3年「持続可能な社会を目指して」

新聞活用のねらい

関連する新聞記事から必要な情報を収集し、持続可能な社会を目指す身近な取組にはどのようなものがあるか考え、ポスターを作成して発表する。

授業の概要

- ・ 班ごとに、これまで収集してきた SDGs の目標 14「海の豊かさを守ろう」に関連する新聞記事を整理する。→課題の把握
- ・ 新聞から得た情報を基に、海の豊かさを守るために、身近にできる取組を考える。
- ・ ポスターを作成し、発表する。

成果

・ 新聞記事を用いたことで、「海の豊かさを守る」という抽象的なテーマを、現実的な課題へと置き換えることができた。実践に向けての具体的行動や学校行事への提言がなされた。



④ 社会科 3年「21 世紀と日本の役割」新聞の読み方とメディアリテラシー

新聞活用のねらい

新聞の読み方を理解することをおして、情報が氾濫する社会を生き抜くためのメディアリテラシーを身に付ける。

授業の概要

- ・ 異なる 2 社の一面記事を提示し、最も目につく記事と次に目につく記事を比較する。
- ・ 同一の題材について書かれた 2 社の「社説」を比較する。
- ・ 生徒の意見を基に、同一の題材についても、新聞各社で分析・主張が異なることに気づかせる。

成果

・ 複数の新聞を読み比べることで、1 つの論調に流されずに、主体的に情報を取捨選択することの重要性に気付くことができた。



⑤ 英語科 4年「英字新聞とニュース動画を作ろう」

新聞活用のねらい

英語版新聞記事の文体を理解する。日本のニュースを基に英字新聞を作成し、オーストラリアの高校生に送る。

授業の概要

- ・ 日本語版と英語版の新聞記事を比較し、それぞれの文体の特徴について考える。
- ・ ペアおよびグループで考えた内容を発表し合う。
- ・ 英字新聞の文体を用いて、自分の身近な出来事についての記事を書く。

成果

- ・ オーストラリアの高校生に日本のニュースを伝えるというゴールを示すことによって、生徒は意欲的に、集中してグループ活動を行っていた。今後、日本の新聞からオーストラリアの高校生に伝えたい記事を選び、英語で記すとともに、動画としてオーストラリアに送る予定である。



⑥ 保健体育科 2年「健康な生活と病気の予防」

新聞活用のねらい

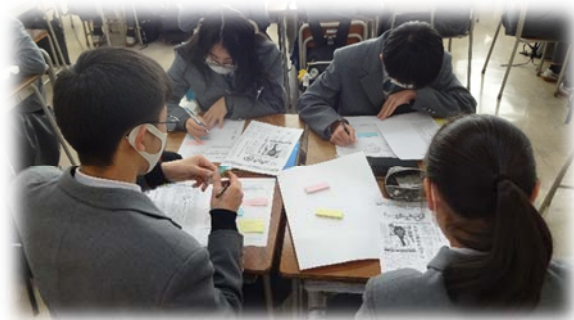
新聞の記述から、未成年の飲酒、大量の飲酒が心身にどのような影響を及ぼすのか具体的に知る。

授業の概要

- ・ 飲酒に関する事前アンケートの結果から、本時のねらいを確認する。
- ・ 新聞記事を読み、未成年の飲酒の危険性について考える。
- ・ 飲酒のメリットとデメリットについてグループで考える。
- ・ 20歳になった自分がお酒とどのように付き合っていくか考える。

成果

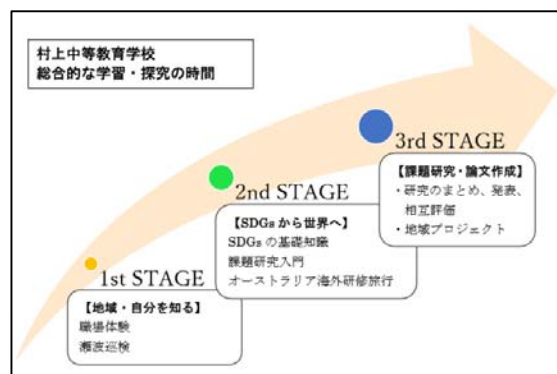
- ・ 新聞を活用したことで、受身の学習姿勢に陥らず、主体的に飲酒の危険性について理解を深めることができた。



(3)「総合的な学習・探究の時間」における活用

今年度、各ステージにおける「総合的な学習・探究の時間」の全体計画を見直した。最終ゴールを 3rd STAGE での論文作成と設定し、それぞれのステージのつながりを意識した。

各ステージ、学年における、「総合的な学習・探究の時間」での新聞活用を、以下のように計画した。



学 年	内 容 (※ 新聞の活用方法)
1st STAGE (1・2 年生)	【地域・自分を知る】 <u>瀬波巡検 (※ 地域への提案についてのポスターセッション)</u> <u>職場体験 (※ 職業に関する情報の収集)</u>
2nd STAGE (3・4 年生)	【SDGs から世界に目を向ける・論文作成準備】 <u>SDGs の基礎知識 (※ 新聞に基づき社会の課題を把握)</u> <u>課題研究入門 (※ 課題設定時の資料としての新聞活用)</u> オーストラリア海外研修旅行
3rd STAGE (5・6 年生)	【課題研究・論文作成】 <u>課題研究 (※ 根拠となる資料集めとしての新聞活用)</u> 課題研究のまとめ・発表・相互評価 地域プロジェクト

4 実践例

NIE まとめの校内研修 3 学年 総合的な学習の時間

(1) 単元名 「10 年後の世界について考えよう」

(2) 単元の目標

- ・持続可能な開発目標 (SDGs) について理解する。
- ・社会のニーズと自分の興味・関心とを照らし合わせ、身近で実践できる取組を提案する。



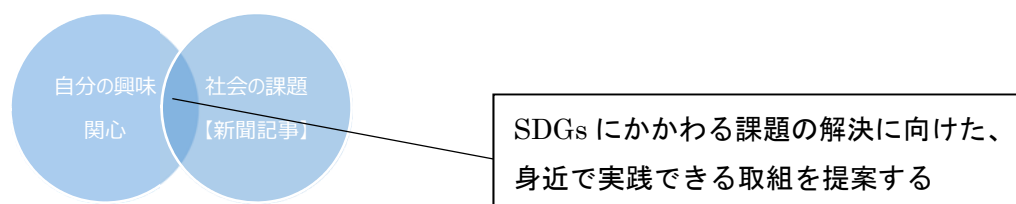
(3) 指導の構想

3 学年の総合的な学習の時間では、「自己を見つめる・世界とつながる」をテーマに、10 年後の自分や世界について学習している。3 学年前期は主に進路学習で、10 年後の「なりたい自分」の姿を予想し、それを実現するためにどのような進路を選択するか、考えを深めてきた。3 学年後期は、SDGs に関連した、探究的な学習プロセスを取り入れた課題解決型の学習に取り組んでいる。10 年後の世界を予想しつつ、SDGs の枠組で世界を見つめ直し、その課題解決のために、身近で実践できる取組を提案する。

SDGsに関連した学習は、4 学年時に訪問するオーストラリアでも、盛んに行われている。今年度から学習してきたことを英語によるプレゼンテーションで伝えたり、現地生徒と意見交換したりすることを目指す。

(4) 本時のねらい

新聞記事から読み取った社会の課題やニーズと、自分の興味・関心とを照らし合わせ、仲間と対話しながら課題解決に向けたアイデアを出し合い、身近で実践できる取組を提案する。



(5) 本時の授業の構想（新聞活用のねらい）

新聞記事を多角的・多面的に考察し、SDGsに関連する社会の課題やニーズをつかむ。

前時で、これまでスクラップしてきた新聞記事を読み直し、SDGsに関連する社会の課題やニーズについて多角的・多面的に考察する。具体的には、「SDGs 付箋」を用いて、一つの記事にも複数の目標が関わることや、一つのゴールの達成に向けた活動が副次的な効果を生み、複数のゴールを達成する可能性について考える。そこから、社会の「ニーズ」をつかみ、自分の課題設定の材料とする。

(6) 授業の実際

1 「ニーズ」と「ワクワク」の確認

前時は、自分の新聞スクラップに、SDGs との関連・解決が必要なこと「ニーズ」→赤付箋、自分が興味・関心をもったこと「ワクワク」→緑付箋を貼った。その付箋をグループごとに出し合い、共有することで各自の視点を広げたり深めたりした。



2 アイディアの共有

SDGs の達成に向けて、赤付箋（ニーズ）と緑付箋（ワクワク）の 2 種類の付箋を組み合わせた。付箋を基に、① 楽しくて（＝ワクワクする要素）② ためになる（＝ニーズに対応）SDGs 達成に近づくアイデアを出し合った。



3 取組の提案

新聞記事を基に、生徒は自分が取り組んでみたいことをプロジェクトシートにまとめ、提案した。社会の課題やニーズとして、「地球温暖化」、「高齢化」、「新型コロナウイルス」、「プラスチック削減」などが挙げられた。一方、ワクワクすることとして、「YouTube」、「工作」、「ゲーム」、「旅行」、「謎解き」などが挙げられた。

取組として、生徒は、「地球温暖化対策」というニーズと、「ゲーム」というワクワクから、「エコポイントゲームを考える」という提案や、「いじめ・虐待をなくす」というニーズと、「絵本」というワクワクから、「絵本を使って現状を知ってもらおう」という提案をするなど、社会の課題を自分事として捉えたアイディアを出し合った。

生徒が書いたプロジェクトシート

5 成果

1年間のNIEの実践をとおり、生徒は少しずつ新聞を身近に感じている様子である。

各教科の授業実践では、生徒が学習内容に興味・関心をもったり、広く深く理解したりする一助として新聞を活用することができた。

まとめの校内研修における総合的な学習の時間の授業では、生徒から「SDGs はとても大きな取組で、本当に達成できるのかな？」と聞いていたけれど、自分たちの身近なことについて考えることから始めればよいと分かり、意外と達成できるのかな、と思った。」

「一つの新聞記事から、いろいろな人の立場を想像して考えることができた。」といった感想があった。新聞の活用により、社会のできごとを自分事として捉え、課題を意識し、主体的に解決に向かおうとする生徒の意欲を喚起することができたと考える。

授業後の検討会では、新聞活用の有効性について、「身近な社会で起きていることへの興味関心を育むことができる。」「新聞から社会のニーズを読み取ることで、生徒の視野を広げることができる。」「新聞スクラップは、継続することで主体的に書く活動へとつなげることができる。」「総合的な探究の時間の実施にあたり、生徒の課題設定の場面で大きな効果が期待できる。」といった意見があった。

今年度は、「新聞に親しむ」ことに重点を置き、主に前期課程での活用を中心に進めた。今年度の成果を活かし、次年度は後期課程において、学力の伸長を目指して学びを深めるための新聞活用について、研究・実践を進めたい。

(新沢 耕輔)



職員による検討会の様子